

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年11月27日

事業所名 すまいる・ツリー

職員数 8

回収数 8

回答率 100%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	無記入	改善目標、工夫している点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8					
	2	職員の配置数は適切である	7		1		基準より多いぐらい 東京都の人員基準より多く配置している	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	5	1		階段の昇降にサポートが必要な利用者には手を添える等の補助をしている 階段が急に感じる 施設自体はバリアフリー化されているが活動によってフロアを移動する際は階段になる	施設内にエレベータ設置等のバリアフリー化は難しいが、階段の昇降にサポートが必要な利用者には個別対応を行っている。また、利用者のペースに合わせて階段の移動に気を付けている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7			1	わからない	新規職員に向けて、研修等を実施していきたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			1		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		1		11月にHPに公表しています	毎年11月に法人のHPに公表していることを伝えていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2	2	2	よくわからない（2）	第3者評価は実施していないが、行政監査などを通じて事業改善を行っている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8				外部研修に参加した翌月に伝達研修をやっています 外部の研修に参加したり会議の中で報告している	
適切な 支援	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8					
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	2		1	質問紙等のアセスメントツールは契約時のみ回答してもらったものがある	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8					
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	1		1	同じ活動でも目標を変えている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	1	1		自由活動の中で生活面や社会性の課題をより丁寧に支援していると感じる 日々の業務で手一杯になっている	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	1			個別の活動があまりできていない	

の提供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8				長期休暇時に流動的に伝えてしまったので事前に決めておく等の時間を作りたい	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8					
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	1				
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			2	わからない	新規職員や非正規職員に向けて、該当項目について説明を行いたい。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っている	5	1		2	わからない	新規職員や非正規職員に向けて、該当項目について説明を行いたい。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	1	1	2	わからない	新規職員や非正規職員に向けて、該当項目について説明を行いたい。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	7			1		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		1	5	2	該当児がいないため「いいえ」 医療的ケア児の利用なし（2）	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	3	3	1	わからない 中・高校生対象のため記載のある機関との連携は行っていない	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	2	1	2	こちらからの情報の発信は行っていない	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	1	2	3	直接的な関りは現在なし	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		1	5	2	わからない	感染症の流行などの社会情勢を見て検討したい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	4	2		2		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8					
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	2	3	2	外部研修等によるペアレントトレーニングは受けていない わからない	外部講師などを招いた職員を対象とした研修を行ったうえで、取り組んでいきたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			1		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			1	面談時電話、メールで相談があった際に都度対応している	

保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	4		1	今年度から再開する予定です 10月に保護者会を行う予定だったが職員体調不良のため延期	年度中に1度開催を予定している。次年度以降、定期的な開催を検討している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8				現在苦情は受けていない	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8					
	35	個人情報に十分注意している	7	1				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8					
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	4	2		地域のコンビニやスーパーを利用して買物をする機会を設定はしている	感染症の流行などもあり、積極的な開催は控えている。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8					
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8					
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	1				
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	1		1	対象となる利用者の個別支援計画に記載している	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	3	1	1	家庭からの聞き取りや個人情報に記載はある調理系の提供時必要な利用者には適宜確約をとっている保護者による聞き取りのみ	全家庭を対象に、災害時における利用者情報のシートに食物アレルギーの記載をしてもらい、一冊のファイルにまとめた。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			1			

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

○回答数に満たない項目には無記入が含まれます